

各級（Bコース）の学習（出題）範囲および出題方法の変更点

ピアノ・エレクトーン演奏グレード10～6級受験要項【2025年11月改訂版】
（一部抜粋）



① ピアノ演奏グレード

② エレクトーン演奏グレード

ヤマハグレードでは
自分の力を確かめながら
次のステップに向けて
どのようにレッスンしていけばよいのかが
わかります。



- すこしずつ、みんなの前で弾けるレパートリーが増えてゆきます。
- メロディーを自分で好きのようにアレンジし、曲にすることができます。
- きいたメロディーに、伴奏をつけることができます。
- 初めて見る楽譜でも、鍵盤で弾けるようになります。
- きいたメロディーや和音がドレミでわかり、すぐに弾くことができます。

① ピアノ演奏グレード

① ピアノ演奏グレード

10級

Bコース10～8級：初見演奏・伴奏づけ・聴奏の出題範囲（調と和音）

※下記のいずれかの調が出題されます。

10級			
調	長調	0	ハ長調
		#1	ト長調
		b1	ヘ長調
	短調	0	イ短調
和音	I, V ₇		

ハーモニー聴奏

【課題例】

※右手は、Iの和音が第5音高位の配置
 ※1小節につき1種類の和音

ハーモニー聴奏の出題内容を変更（1小節に1種類の和音）

① ピアノ演奏グレード

9級

Bコース10～8級：初見演奏・伴奏づけ・聴奏の出題範囲（調と和音）

※下記のいずれかの調が出題されます。

9級			
調	長調	0	ハ長調
		#1	ト長調
		b1	ヘ長調
	短調	0	イ短調
		b1	ニ短調
和音	I, IV, V ₇		

初見・伴奏づけ・ハーモニー聴奏について、和音の出題範囲を変更（V度を省く）

① ピアノ演奏グレード

8級

参考資料 スケールとカデンツ（出題範囲）

<ハ長調>

※ 8級で出題される両手カデンツのポジションは、右手の開始和音が第5音高位または根音高位の2種類です。

カデンツの2種類を示す楽譜:

- 第5音高位 (Right hand starts on G4)
- 根音高位 (Right hand starts on C4)
- 第3音高位 (Right hand starts on E4)
- 根音高位 (Right hand starts on C4)

<ト長調>

<ヘ長調>

両手カデンツのポジションは、右手の開始和音が第5音高位と根音高位のみとする

① ピアノ演奏グレード

8級

参考資料 スケールとカデンツ（出題範囲）

<イ短調>

【和声的短音階】

【旋律的短音階】

<ニ短調>

【和声的短音階】

【旋律的短音階】

<ホ短調>

【和声的短音階】

【旋律的短音階】

両手カデンツのポジションは、右手の開始和音が第5音高位と根音高位のみとする

① ピアノ演奏グレード

8級

2. 試験の流れ

試験は次の流れで行います。試験室には受験者ご本人のみ入室いただきます。

伴奏づけ

課題の楽譜を提示します。

※課題の楽譜には開始和音が音符で記されています。

試験官がメロディーを一度通して弾きますから開始和音に気をつけて和音を考えながら聴いてください。

試験官の弾くメロディーに合わせて和音づけをします。

続けて伴奏の形で演奏します。

【課題例】

Moderato

9級までとは違い、8級ではバス音は提示されませんが、開始和音が音符で記されます。メロディーと和音の関係をバス音も含め理解し、和音の配置にも気をつけながら演奏してください。

【伴奏づけ】について、試験問題に開始和音が音符で記される

① ピアノ演奏グレード

8級

【試験実施方法】

- 1) 試験官がメロディーを一度通して弾きますので、**開始和音に気をつけて**楽譜を見ながらよく聴いてください。
- 2) 次に、試験官の弾くメロディーに合わせて、**開始和音に続いて**適切な和音をつけ両手で演奏します。

「1, 2, 3, (ハイ)」
Moderato

試験官

受験者

「ハイ、伴奏を変えて...」

- 3) 続けて、それを伴奏の形で演奏します。

Moderato

試験官

受験者

提示した伴奏形は一例です。
曲の雰囲気, テンポ等それぞれの曲に合う伴奏形で演奏できるように練習しておくといでしょう。

【伴奏づけ】について、試験問題に開始和音が音符で記される

① ピアノ演奏グレード

7・6級

Bコース7・6級：初見演奏・即興演奏・聴奏の出題範囲（調と和音）

※下記のいずれかの調が出題されます。

※和音は適宜転回形を用います。

7級			
調	長調	#1	ト長調
		#2	ニ長調
		b1	ヘ長調
		b2	変口長調
	短調	0	イ短調
		#1	ホ短調
		b1	ニ短調
		b2	ト短調
和音	I, IV, V, V ₇ , II		

6級			
調	長調	#1	ト長調
		#2	ニ長調
		#3	イ長調
		b1	ヘ長調
		b2	変口長調
		b3	変ホ長調
	短調	#1	ホ短調
		#2	口短調
		b2	ト短調
		b3	ハ短調
和音	I, IV, V, V ₇ , VI, II, V̇ ₇		

調と和音の出題範囲を見直し、全項目（初見演奏・即興演奏・聴奏）統一

① ピアノ演奏グレード

7・6級

2. 試験の流れ

試験は次の流れで行います。試験室には受験者ご本人のみ入室いただけます。

即興演奏

課題の楽譜を提示します。
最後まで目を通してください。

まずメロディーだけを演奏します。

そのメロディーに和音をつけて演奏します。
※和音づけは長音符での引き伸ばし（ベタ弾き）で行います。

次に伴奏形に変えて演奏します。
続けて曲全体を変奏します。

【試験実施方法】

- 1) 与えられた課題のメロディーに目を通します。
- 2) 課題のメロディーだけを弾きメロディーを把握します。試験官が状況に応じフォローを行います。

フォロー例 「試験官と一緒にメロディーを読む」、「試験官がメロディーを歌う」
「試験官がメロディーを区切って弾く（受験者はそのとおりにまねをする）」

※メロディーの演奏は、判定の対象とはなりません。

- 3) そのメロディーに和音をつけて演奏します。
※和音づけは長音符での引き伸ばし（ベタ弾き）で行います。
※和音づけが上手くいかない場合は、試験官が状況に応じフォローを行います。
※和音づけ以降は、判定の対象となります。

受験者

即興演奏の実施方法を一部変更 ‹‹伴奏形の確認（試し弾き）を廃止››

① ピアノ演奏グレード

7・6級

4) 次に伴奏形に変えて、通して演奏します。

受験者

5) 続けて曲全体を変奏します。

受験者

提示した伴奏形は一例です。

曲の雰囲気、テンポ等それぞれの曲に合う伴奏形で演奏でき、変奏できるよう練習しておくといでしょう。

即興演奏の実施方法を一部変更 ‹‹伴奏形の確認（試し弾き）を廃止››

② エレクトーン演奏グレード

② エレクトーン演奏グレード

10級

Bコース10～8級：初見演奏・伴奏づけ・聴奏の出題範囲（調と和音）

※下記のいずれかの調が出題されます。

10級			
調	長調	0	ハ長調
		#1	ト長調
		b1	ヘ長調
	短調	0	イ短調
和音	I, V ₇		

ハーモニー聴奏

【課題例】

() 音は〔ベースと左手〕の場合の左手

※両手奏の場合、右手は、Iの和音が第5音高位の配置

※1小節につき1種類の和音

ハーモニー聴奏の出題内容を変更（1小節に1種類の和音）

② エレクトーン演奏グレード

9級

Bコース10～8級：初見演奏・伴奏づけ・聴奏の出題範囲（調と和音）

※下記のいずれかの調が出題されます。

9級			
調	長調	0	ハ長調
		#1	ト長調
		b1	ヘ長調
	短調	0	イ短調
		b1	ニ短調
和音	I, IV, V ₇		

初見・伴奏づけ・ハーモニー聴奏について、和音の出題範囲を変更（V度を省く）

② エレクトーン演奏グレード

8級

参考資料 スケールとカデンツ（出題範囲）

<ハ長調>

<ト長調>

<ヘ長調>

※ 8級で出題される両手カデンツのポジションは、右手の開始和音が第5音高位または根音高位の2種類です。

(第5音高位)

(根音高位)

両手カデンツのポジションは、右手の開始和音が第5音高位と根音高位のみとする

※『ベースと左手』の出題範囲は変更ありません

② エレクトーン演奏グレード

8級

参考資料 スケールとカデンツ（出題範囲）

<イ短調>

【和声的短音階】

【旋律的短音階】

<ニ短調>

【和声的短音階】

【旋律的短音階】

<ホ短調>

【和声的短音階】

【旋律的短音階】

両手カデンツのポジションは、右手の開始和音が第5音高位と根音高位のみとする

※『ベースと左手』の出題範囲は変更ありません

② エレクトーン演奏グレード

8級

2. 試験の流れ

試験は次の流れで行います。試験室には受験者ご本人のみ入室いただきます。

伴奏づけ

試験官が〔両手伴奏〕で弾くか〔ベースと左手〕の形で弾くか申込書をもとに確認します。

課題の楽譜を提示します。

※課題の楽譜には開始和音が音符で記されています。

試験官がメロディーを一度通して弾きますから開始和音に気をつけて和音を考えながら聴いてください。

試験官の弾くメロディーに合わせて和音づけをします。

続けて伴奏の形で演奏します。

【課題例】

Allegretto

9級までとは違い、8級ではベース音は提示されませんが、開始和音が音符で記されます。メロディーと和音の関係をバス音も含め理解し、和音の配置にも気をつけながら演奏してください。

【伴奏づけ】について、試験問題に開始和音が音符で記される

② エレクトーン演奏グレード

8級

【試験実施方法】

- 1) 試験官が〔両手伴奏〕か〔ベースと左手〕か申込書をもとに確認をとります。
- 2) 試験官がメロディーを一度通して弾きますので、**開始和音に気をつけて**楽譜を見ながらよく聴いてください。
- 3) 次に、試験官の弾くメロディーに合わせて、**開始和音に続いて**適切な和音をつけ演奏します。

「1, 2, 3, (ハイ)」

Allegretto

試験官

受験者

「ハイ, 伴奏を変えて…」

- 4) 続けて、それを伴奏の形で演奏します。

Allegretto

試験官

受験者

(※伴奏は自動機能を用いずノーマル演奏によるものとします。)

提示した伴奏形は一例です。

曲の雰囲気、テンポ等それぞれの曲に合う伴奏形で演奏できるよう練習しておくといでしょう。

【伴奏づけ】について、試験問題に開始和音が音符で記される

② エレクトーン演奏グレード

7・6級

Bコース7・6級：初見演奏・即興演奏・聴奏の出題範囲（調と和音）

※下記のいずれかの調が出題されます。

※和音は適宜転回形を用います。

7級			
調	長調	#1	ト長調
		#2	ニ長調
		b1	ヘ長調
		b2	変口長調
	短調	0	イ短調
		#1	ホ短調
		b1	ニ短調
		b2	ト短調
和音	I, IV, V, V ₇ , II		

6級			
調	長調	#1	ト長調
		#2	ニ長調
		#3	イ長調
		b1	ヘ長調
		b2	変口長調
		b3	変ホ長調
		短調	#1
	#2		口短調
	b2		ト短調
	b3		ハ短調
	和音	I, IV, V, V ₇ , VI, II, V ₇	

調と和音の出題範囲を見直し、全項目（初見演奏・即興演奏・聴奏）統一

② エレクトーン演奏グレード

7・6級

2. 試験の流れ

試験は次の流れで行います。試験室には受験者ご本人のみ入室いただきます。

即興演奏

課題の楽譜を提示します。
最後まで目を通してください。

まずメロディーだけを演奏します。

そのメロディーに和音をつけて演奏します。
※和音づけは長音符での引き伸ばし（ベタ弾き）で行います。

次に伴奏形に変えて演奏します。
続けて曲全体を変奏します。

【試験実施方法】

- 1) 与えられた課題のメロディーに目を通します。
- 2) 即興演奏を行うために、課題のメロディーだけを弾きメロディーを把握します。正しく読めない場合は試験官が状況に応じフォローを行います。

【フォロー例】 「試験官と一緒にメロディーを読む」、「試験官がメロディーを歌う」、
「試験官がメロディーを区切って弾く（受験者はそのとおりにまねをする）」

※メロディーの演奏は、判定の対象とはなりません。

- 3) そのメロディーに和音をつけて演奏します。
※和音づけは長音符での引き伸ばし（ベタ弾き）で行います。
※和音づけが上手くいかない場合は、試験官が状況に応じフォローを行います。
※和音づけ以降は、判定の対象となります。

Allegretto

受験者

即興演奏の実施方法を一部変更 ‹‹伴奏形の確認（試し弾き）を廃止››

② エレクトーン演奏グレード

7・6級

4) 次に伴奏形に変えて、通して演奏します。

Allegretto

受験者

5) 続けて曲全体を変奏します。

Allegretto

受験者

提示した伴奏形は一例です。

曲の雰囲気、テンポ等それぞれの曲に合う伴奏形で演奏でき、変奏できるよう練習しておくといでしょう。

即興演奏の実施方法を一部変更 ‹‹伴奏形の確認（試し弾き）を廃止››

